

市長記者会見記録

日時：2023年12月21日（木）14時00分～14時17分

場所：本庁舎2階 記者会見室1・2

議題：いよいよ市制100周年へ。あたらしいビジュアルを制作し、2024年をむかえます。新年から、市内各地で広報を展開していきます！（総務企画局）

<内容>

【議題】

《いよいよ市制100周年へ。あたらしいビジュアルを制作し、2024年をむかえます。新年から、市内各地で広報を展開していきます！》

【司会】 ただいまから、市長記者会見を始めます。本日の議題、「いよいよ市制100周年へ。あたらしいビジュアルを制作し、2024年をむかえます。新年から、市内各地で広報を展開していきます！」について福田市長から御説明いたします。市長、よろしくをお願いします。

【市長】 それでは、川崎市市制100周年のあたらしいビジュアルについて御説明をさせていただきます。このたび、令和6年に迎える市制100周年の歴史的な年を市民の皆様とともに迎え、あたらしい川崎を生み出す機運を醸成することを目的に、市制100周年のあたらしいビジュアルを作成いたしました。

メインビジュアルは、市制100周年記念事業のステートメントから、市制100周年のコンセプトがシンプルに伝わるキャッチコピー「これからはじまる Colors, Future! Actions さあ、いっしょに。」、視認性を高めたビジュアルとメッセージの組合せにより、市制100周年をダイレクトに表現しています。併せてバリエーションビジュアルを、まちなかで生み出されるさまざまなアクションの写真を活用して随時作成し、メインビジュアルとセットで、デジタルサイネージやシティードレッシングなどで展開をまいります。

あたらしいビジュアルは、市内主要駅等におけるラッピングなどで駅を飾るシティードレッシングや、商業施設等における広告掲出を令和6年1月から順次実施していくとともに、記念事業期間がスタートする令和6年4月から、川崎市制100周年記念事業・全国都市緑化かわさきフェア実行委員会協賛企業のロゴマークまたは社名入りでポスターを制作して、全市で展開をまいります。さらに、ビジュアルをイメージした内容の市制100周年PR動画を作成し、各種サイネージで展開するほか、さまざまな広報物を順次制作、展開して、市制100周年に向けた一体感を醸成してま

います。あたらしいビジュアルやさまざまな記念事業を通じて、川崎を知って、関わって、好きになっていただけるよう、みんなが主役となる市制100周年に向けて機運を高めてまいります。

私からの説明は以上です。

【司会】 それでは、ただいま御説明しました議題についての質疑応答に入ります。進行につきましては、幹事社各社の皆様、よろしくお願いいたします。

【読売（幹事社）】 幹事社の読売新聞です。よろしくお願いいたします。ビジュアルのポスターとかデジタルサイネージなんですけれども、具体的にどういう規模感で何か所ぐらいでやっていくかというものがお示しできるのであれば教えてください。

【市長】 事務方からでもよろしいでしょうか。

【読売（幹事社）】 はい。

【総務企画局】 シティプロモーション推進室でございます。ビジュアルについては、これから1月以降、展開してまいります。具体的な場所につきましては、主要駅を中心に、川崎駅、鹿島田駅、武蔵小杉駅、溝の口駅、登戸駅、新百合ヶ丘駅、こうした駅を中心に掲出をしてまいります。特に、緑化フェアの直前ですとか、そういったところはまた掲出量を増やして、順次拡大しながら展開していきたいと考えております。以上でございます。

【読売（幹事社）】 ありがとうございます。もう1点なんですけれども、市民が川崎市制100周年の認知度的な部分は、市長としてどういうふうに受け止めていらっしゃるでしょうか。

【市長】 実際こういうビジュアルみたいなものが外に出ていくときに、ああ、そうなんだなって感じていただけるのではないかと考えていますので、来年明けましたら、皆さん、そういう感覚になっていくのではないかと考えています。

【読売（幹事社）】 市民がこのビジュアルを見て、あっ、100周年だなんて思うことで、川崎市にどういう思いを持ってほしいかみたいなこと……。

【市長】 今回のコンセプトでもありますけれども、もう100年以上前から住んでいるお宅も今日から市民になった方も改めて川崎市を知って、そして関わって、好きになっていただくということが大事だと思っていますので、本当にいろんな企画ですとかイベントなど、身近なところにたくさんあると思いますので、そうしたところに積極的に市民の皆さんに関わっていただきたいと思っています。

【読売（幹事社）】 ありがとうございます。

読売新聞からは以上です。

【NHK（幹事社）】 各社さん、お願いします。

【司会】 御質問は以上でよろしいでしょうか。それでは、こちらで議題に関する関係者は退室いたします。少しお時間を頂戴いたします。

【市政一般】

それでは、引き続きまして、市政一般に関する質疑をお受けいたします。進行につきましては、幹事者各社の皆様、よろしく願いいたします。

《かわさきスポーツパートナーの活躍について》

【読売（幹事社）】 読売新聞です。先日、川崎フロンターレとNECレッドロケッツが優勝して、川崎のホームタウンで2つのスポーツチームが優勝したということの受け止めと、これからスポーツのまち川崎として発展していくために、改めて市長の思いですとか、どういうふう川崎、スポーツのまちとなってほしいかみたいなどころがあれば教えてください。

【市長】 まず、フロンターレの天皇杯、レッドロケッツの皇后杯ということで、ホームタウンにしているチームがそれぞれに日本一を果たされたという、私も幸いにして両方の試合を観戦させていただきましたけれども、改めて強いということ、市民が一体となって応援している姿に感激、感動しました。今年も、年初めの富士通フロンティアーズの日本一から始まってということで、今、ブレイブサンダースもクォーターファイナルまで来ていますので、今後も活躍を期待したいと思いますが、プロ、社会人、本当にものすごく強くて、名実ともにスポーツのまち、観るという意味ではすばらしいまちになっていると思います。川崎が細長い地形を持っているので、市民の一体感が醸成しにくい土地柄ではありますが、こういうスポーツで市民を一つにしてくれているということ、すごくありがたく思っています。

【読売（幹事社）】 読売新聞からは以上です。

《今年の漢字について》

【NHK（幹事社）】 NHKです。今年最後の市長会見ということで、今年の出来事を振り返りますということで広報もいただきましたけれども、いろいろあった1年かと思うんですけども、ずばり今年1年を1つ漢字にまとめるとしたら、伺ってもよろしいでしょうか。

【市長】 ありがとうございます。しっかり毎年の感じで用意しておりますけれども、下手な字ですいません。「新」という、こんな漢字ですけども。新庁舎もできましたということもありますし、JFEスチールの高炉が休止して、川崎を象徴する一つの事業の幕引きとともに、新しい世界がこれから始まる、そういう年になったと思いま

すし、地域エネルギー会社を新しく立ち上げたりだとか、ちょっと先駆的な100年またぎというか、時代が非常に変わること、新しい要素が盛りだくさんだった1年だったという思いで、「新」という言葉にさせていただきました。

【NHK（幹事社）】 各社さん、お願いします。

《JFEスチールの高炉等休止に伴う雇用関係の支援施策について》

【朝日】 朝日新聞と申します。JFEスチールの高炉休止に伴って、その後の再雇用の問題なんですけれども、国、県、市で連携して取り組まれています、現状については、市長、どういうふうに見ていらっしゃいますでしょうか。

【市長】 まず、JFEスチールにお勤めの方は非常に優秀な方ばかりなので、そういった意味ではもう引く手あまたで、これまでも何度かに分けて就職の相談マッチングみたいなことをやっていますけれども、前回やったときなんかは、対象者に対して企業のほうが圧倒的に多いという形になっていますので、そういう意味では最初、非常に大きい影響が出ると心配しましたけれども、社員の方の優秀さと、今、そういった技術力が求められているという、ニーズにすごくマッチしているんだと思っています、そういった意味では、全体としては非常にスムーズに移行できるのではないかと考えております。

【朝日】 協力会社の方々の再雇用問題については、いかがでしょうか。

【市長】 課題はあると思っていますが、ただJFEさんも非常に積極的にやっただいただいていると承知しています。私たちもアンケートなどを何度も取っておりますけれども、行政の支援みたいのを必要としないところも結構あったりして、と答えられる方もいて、まだまだ影響は少ないと思いますけれども、そちらのほうにもJFEはしっかりやっただいただいているとは思っています。

【朝日】 ありがとうございます。

《ライドシェアの導入について》

【TBS】 TBSといます。政府は来年の4月以降、ライドシェアを導入するという方向になっておりまして、都市部も対象に含まれるという話になっております。神奈川県も三浦市と実証実験をする方向で今話し合っているんですけれども、まず、市長の今この状況への受け止めと、もし賛否とかがありましたら、こういった考えでということを含めてお聞きできればと思います。

【市長】 やはりそれぞれの地域の課題って全国、都市部、あるいは地方では大分状況が違うというのがあるので、地域の実情に合った形で、ライドシェアみたいなものができていくことはありなのではないかと思っておりますけれども。私どもも、バス事業者

の皆さんやタクシー事業者の皆さんと協力して、相乗りというか、乗り合いの実証実験を行ったり自動運転の実証などをやっていますので、そういったことで課題を解決できればと思っております。

【TBS】 ありがとうございます。

《インターネット上における差別的な投稿について》

【毎日】 毎日です。今年1年を振り返って、差別に対峙するということで言うと、今年、画期的な判決が出て、ネット上の話題に入るような言説というのも、あれは差別ですよというような強いメッセージが法廷からも出されたと思います。市長も会見等で、差別はいけないんだということを明確におっしゃっていると思うんですが、今年1年、一方で、ネット上で差別的言説というのはなかなか防止、予防が難しいという状況が続いている現状があると思うんですが、こういったことを見渡して、市長として1年をどう受け止めて、来年、市制100周年ということもあって、非常にランドマークの年になると思うんですが、そこに向けてどのような姿勢で取り組んでいきたいかということがあれば教えてください。

【市長】 この会見でも繰り返し申し上げているところでありますけれども、差別は絶対に許されないんだということを繰り返し強く言っていくことが大事だと思っています。御指摘のように、インターネット上の差別がなかなかなくなるというよりも、むしろそういった事案は増えていることに非常に危機感を持っております。ただ、これまでも削除要請なども繰り返してきましたけれども、そういったものに対する規制も大事だとは思いますが、まずプロバイダー側のそういった姿勢も問われるんだと思います。ネット上の差別を助長してはいけないという事業者としての責任もしっかり受け止めていただきたいと思っています。

【毎日】 それは例えば具体的に、削除要請をしても反応がないとか、あるいは放置状態……。

【市長】 というところもありますし、正直そういうのをしっかり管理していくのは社会的な責任だと私は思いますけれども。

【毎日】 責任をちゃんと果たしてほしいということですね。

【市長】 はい。

《浄水装置の導入に関する報道への対応について》

【朝日】 すいません。朝日新聞と申します。以前の記者会見で、上下水道局の一部報道に対して法的措置を取る、絶対取るとおっしゃっていましたが……。

【市長】 それは……。

【朝日】 記者会見で。その後、どうされるんでしょうか。法的措置を取る……。

【市長】 私個人がということですか、それとも職員に対して……。

【朝日】 いや、報道機関に対してです。

【市長】 相談を進めております。

【朝日】 そうですか。一応、市長という立場での名誉毀損訴訟になると思いますので、提訴段階では記者会見などを開いていただければ幸いですと思いますので、御検討ください。

【市長】 検討させていただきたいと思います。

【司会】 そのほか、御質問いかがでしょうか。よろしいですかね。

それでは、本日の記者会見を終了いたします。ありがとうございました。

(以上)

・この記録は、重複した言葉づかい、明らかな言い直しや質問項目などを整理した上で掲載しています。

(お問合せ) 川崎市役所総務企画局シティプロモーション推進室報道担当